

伝統的技術の 保存について

吾郷益已 議員

町長 積極的に検討して行きたいと
考えます



問 伝統的技術の保存について

答 そろばん、玉鋼、木工芸などの伝統的な物作り職人の技術が、高齢化により消えようとしている。伝統的な職人の技術は今後は一層重要になると考えられるが、現在は何も対応されていない。これらの方々の後継者の育成支援をどう進めて行くのか。

問 算盤、木工芸などの伝統的産業については物造りの大切さが見直されていることから、ご指摘の後継者の育成は難しい事ではありますが、極めて



▲ 作品づくりに励む職人さん

大切な事であります。町単独での支援は難しい問題であります。大切な事なので国や県の手が届かない所は町で積極的に検討して行きたいと考えます。

問 奥出雲町職員の定数条例について
本町の職員定数条例第2条において、町長の事務部局の職員178人、議会の事務局の職員2人、教育委員会の事務局の職員41人、農業委員会の事務局職員2人、合計223人となっている。しかし、本定例議会に提案されている。平成22年度一般会

問 人材育成について

町政座談会において自治会長からの要望の中に管理的な立場へ登用する職員は、他の町村に比べ奥出雲町を客観的に見る見識が必要である。

役場は最大のサービス産業であり、職員は住民サービスに対し目的意識をもってリードする力が必要である。

問 本町についても職員の資質能力を高めるため

町の自治研修所が実施している各種の研修に積極的に参加させています。また一部の課を除いては、研修をする職員が少ない、役場にいられた町民の皆様への思いやりが感じられないなどの事ですが、このような事であれば遺憾な事ですので、職員の研修、資質の向上、意欲の涵養について十分に注意してまいります。

佐白温泉計画をきちんと 説明し住民合意を

塔村俊介 議員

町長 地元で議論が重ねられており、
他地区の合意は必要ない



問 佐白温泉について、計画の全体像が不明確すぎる。5億円の大きな事業であり、まずは町民に知ってもらってから議論する話である。まずどういうスケジュールなのか。

答 温泉交流施設について、12月の所信表明でも明確に申し上げ、これまでに準備経費も若干予算計上している。施設は来秋の完成を目指す。

問 なぜ温泉なのか。町内には玉峰山荘やヴィラ船通山もあり、ヴィラについては、冬季休業している状態である。新たに

温泉をつくる必要はないのでは。

答 ダムに建設される自転車施設やボート競技施設を利用された方が、佐白温泉で汗を流すために、ぜひとも必要な施設と考えている。

問 温泉施設の維持管理費は。隣の雲南市では4つの温泉があるが、毎年500万円〜2千万円を市で負担せざるを得ない状況である。

答 現時点では具体的な数字はいえない。

問 話にならない。後の負担が、数十万、数百、数千円なのかで話は違ってくる。幾ら赤字が出て良いという姿勢では議論ができない。

答 今回の温泉計画は、町民1世帯当たり10万円の負担と大きい。ただ尾原ダムの思いに報いるということだけでは納得してもらえない。もっと町民に説明をし、理解を深めてもらうことが必要。

問 幼児園化に伴い、幼稚園は全てなくなるという認識で良いか。

答 教育長
幼稚園が全てなくなる

問 地元から要望があれば全9地区に幼児園を設置したいという話を以前されたが、考えに変わりはしないか。

答 いつまで頑張れるかわからないが、小規模になっても維持できるように取り組むつもりである。全9地区で行う。

問 今回の予算に、布勢幼稚園の幼児園化と横田保育所の建て替えの予算が計上された。幼保一体化計画の町全体像の説明を。

答 布勢地区は幼稚園を改装して幼児園とすることになっている。横田幼稚園、横田保育所も移転改築して、幼児園化に向けて準備を進めたい。その他の地区については、逐次幼児園化を進めていきたい。

※小学校と同じように、幼児園化についても全体像を示し、町民に選択肢を与えてほしい。小学校のように、全部改築するのに40億円もかかると後で言われても困る。今回の布勢幼児園化にしても、小規模であるため、数百万円程度の赤字負担があり、それならば、他の保育所に行ってください、その代わり子供1人当たり30万円ずつ配りますという選択肢もある。他の地区も同様である。

また、布勢でアンケートが実施されている中で結論を先に決めるのは、住民軽視である。